第 153 回　韓国併合と辛亥革命

1　韓国併合

・韓国では、官僚たちが独立協会を結成し、独立を確保しようとしていた。
・しかし日本は第１次日韓協約で、韓国政府に日本の顧問を置くことを強制した。

・日露戦争に勝利した日本は、1905 年の（　　）によって外交権を奪い、（　　）を置いて（　　）を実行した。
→1907 年、韓国は（　　）で日本の侵略を訴えたが無視された。

・日本の進出が強まるなか、1907 年の第３次日韓協約で韓国軍が解散させられると、韓国内では（　　）や愛国啓蒙運動が活発化していった。
→1909 年、初代韓国統監の（　　）が、ハルビン駅で朝鮮人の愛国者（　　）によって暗殺された。

・（　　）年、日本は韓国併合に関する条約を強制し、（　　）を行った。
→漢城を京城にあらため、（　　）を置いて統治した。

伊藤博文

暗殺直前

伊藤博文は、日本の初代総理大臣でもある。右の写真の左端で、帽子に手をかけているのが伊藤博文。この直後に撃たれた。

安重根

韓国では抗日闘争の英雄とされ義士と呼ばれる。裁判により死刑となったが、その思想と人柄は、多くの日本人にも共感を与えた。

朝鮮総督府

初代朝鮮総督は寺内正毅。総督府は李朝時代の王宮の真ん中に建てられていた。1999 年に取り壊されてしまった。

2　孫文の三民主義

・中国が半植民地化されるなかで、海外の（　　）や（　　）は、弱い清を打倒して欧米列強に抵抗しようと、革命運動を行うようになった。
・1894 年に（　　）がハワイで結成した（　　）の他、光復会や華興会などの革命団体が、華僑の資金援助によって成立した。

・1905 年、孫文は革命団体を結集させて、東京で（　　）を結成した。
・孫文は、（　　）の独立、（　　）の伸張、（　　）の安定を中国革命の基本理念とし、これを（　　）という。
・また 1905 年に四大綱領を発表し、機関誌『民報』を発行した。
→孫文らの活動は、康有為や梁啓超ら立憲派と対立する立場であった。

孫文

中国革命の父とされ、中国と台湾の両方で尊敬されている。日本に亡命していたため日本との関係も深く、多くの日本人が孫文を援助したとされる。

章炳麟

浙江省出身の革命家。1904 年に蔡元培らとともに光復会を結成した。辛亥革命後は、中華民国政府に参加したが、袁世凱と対立して引退した。

新軍の訓練

光緒新政といっても、光緒帝は戊戌の政変以降は監禁状態に置かれており、この改革にはかかわっていない。監禁状態のまま 1908 年に死去したが、実は毒殺であった。

3　光緒新政と革命運動

・義和団事件の後、清は近代化を進めるための改革をようやく始めた。
※これを（　　）というが、もはや手遅れであった。

宣統帝（溥儀）
1908 年、幽閉中の光緒帝が死去すると、2歳の宣統帝が即位した。右にいる少年が宣統帝。ラストエンペラーである。

・1905 年に（　　）し、1911 年には軍機処を廃止した。
・1906 年、西洋式の軍隊である（　　）を創建した。
・1908 年、（　　）を発布し、（　　）を行った。
→改革による中央集権化や増税は地方の有力者や民衆の反発をまねいた。

4　辛亥革命と清の滅亡

・1911 年、清は、鉄道国有令によって（　　）を行い、それを担保に英米独仏の四国借款団からお金を借りようとした。
→外国勢力からの利権回収運動を行っていた民族資本家は猛反発した。

・1911 年、鉄道国有令に反対し、（　　）が起こった。
→清は湖北新軍を派遣したが、その軍が逆に（　　）を起こした。
→これが全国に波及し、（　　）が始まった（第一革命）。
・1912 年、孫文を（　　）とし南京で（　　）が建国された。
→清は、北洋軍の（　　）を起用して鎮圧しようとした。
→しかし袁世凱は孫文と裏取引をし、清の最後の皇帝（　　）を退位させて、自らが北京で臨時大総統となった（後に大総統に就任）。
→これにより清は滅亡したが、今度は袁世凱が独裁者となってしまった。

武昌蜂起
四川暴動を鎮圧するために派遣された湖北新軍のなかにも、中国同盟会のメンバーがいた。
中国では武昌起義と呼ばれ、辛亥革命の幕開けとされる。

袁世凱
李鴻章の部下で、李鴻章の死後に北洋軍を受け継いだ。
ヨーロッパ諸国から「ストロングマン」と呼ばれた、清朝末期の実力者である。

宋教仁
宋教仁は、議院内閣制による民主的な政府を作ろうとしていた。31 歳での暗殺が惜しまれる。
この国民党は、後に孫文が組織する中国国民党とは別なので注意。

・1912 年、革命派は、臨時約法により袁世凱の権限を制限しようとした。
・さらに革命派は、宋教仁を中心に（　　）を結成し選挙で圧勝した。
→袁世凱は宋教仁を暗殺し、革命派に対する弾圧を強めた。
→1913 年、革命派は袁世凱に対する（　　）を起こしたが失敗。
→1914 年、孫文は日本に亡命し、東京で（　　）を結成した。

袁世凱の帝政
袁世凱は新約法で独裁を合法化した後、突然皇帝になった。
民衆からは全く支持されなかった。

・第一次世界大戦中の 1916 年、袁世凱は皇帝に即位して帝政を開始した。
→→しかし袁世凱の帝政に対して民衆は猛反発した（第三革命）。
→袁世凱はすぐに帝政を取り消したが、失意のうちに病死した。
→中国は、（　　）という地方軍事政権により分裂状態となった。